

DXハイスクール事業における 高大連携について

令和7年度 大学・高専機能強化支援事業 機能強化会議
令和8年2月18日（水）

文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付参事官補佐

菊地 勇次

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

令和7年度補正予算額

52億円



文部科学省

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

箇所数・補助上限額 ※定額補助

公立・私立の
高等学校等
(1,300校程度)

- 新規採択校 : 100校程度 × 1,000万円
- 継続校 : 200校程度 × 500万円 (重点類型の場合700万円) 【2年目】
1000校程度 × 300万円 (重点類型の場合500万円) 【3年目】

※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算 (80校 (半導体重点枠を含む))

採択校に求める具体の取組例 (基本類型・重点類型共通)

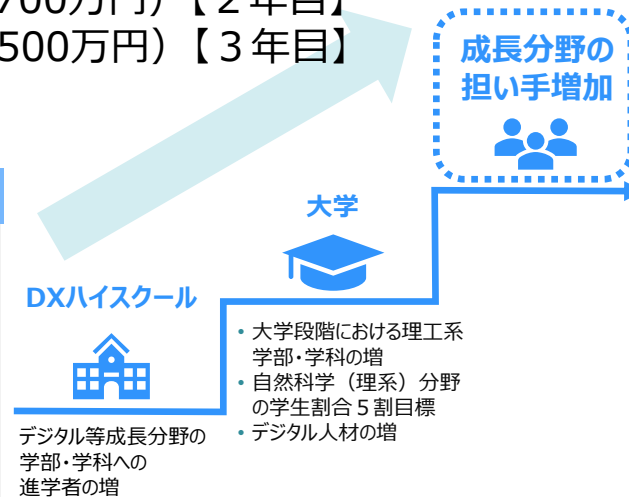
- 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進 (遠隔授業の活用を含む)
- 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目 (数学Ⅲ等) の遠隔授業による実施
- 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

採択校に求める具体の取組例 (重点類型 グローバル型、特色化・魅力化型、プロフェSSIONAL型 (半導体重点枠を含む))

- グローバル型 : 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- 特色化・魅力化型 : 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換
- プロフェSSIONAL型 : 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備 (ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等)、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等



事業スキーム



申請要件（共通）

以下の必須要件を満たした学校が本事業の補助対象（1-1、1-2のいずれかひとつ及び2を満たすことが必要）。また、必須要件の他に加算項目を定める。※特別支援学校高等部は2のみ満たすことで申請可

必須要件

1. 情報Ⅱ等の教科・科目の開設等

1-1

情報Ⅱ等※をすでに開設していること（情報Ⅱに相当する内容を含む大学等の科目を履修することを含む）（他校からの遠隔授業を受信しているケースも含む）。また、遅くとも採択後3年後までに**受講生徒数の割合を全体の2割以上とすることを**目指すこと。

1-2

情報Ⅱ等の開設等に向けた具体的な検討を遅くとも当該年度中に開始し、必要な準備を進めること。その際、遅くとも採択後3年後までに開設等するとともに、早期に**受講生徒数の割合を全体の2割以上とすることを**目指すこと。

※情報Ⅱ等

- ・情報Ⅱ
- ・数理・データサイエンス・AIの活用を前提とした実践的な学校設定教科・科目及び総合的な探究の時間
- ・情報Ⅱの内容を含むことにより指導内容を充実させた職業系の教科・科目

2. デジタル環境の整備と教育内容の充実

デジタルを活用した課外活動又は授業を実施するための設備を配備したスペースを整備し、教育内容の充実、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学びの機会の確保、対話的・協働的な学びの充実を図ること

加算項目

3. 理数系科目の充実
4. 情報・理数系学科・コースの充実
5. 文理横断的な新しい普通科の設置
6. 特別支援学校の学びの充実
7. 多面的な入試の実施

等



高大連携 イベント



福岡県「DXハイスクールと大学」連携イベント

- 主催：九州大学
- 参加大学：北九州市立大学、福岡女子大学、九州工業大学、福岡工業大学、九州情報大学、久留米工業大学、サイバー大学、日本経済大学、西南学院大学、九州産業大学
- 参加高校：福岡県内の高校 13校

プログラム①

参加高校によるプレゼン

参加高校がDXハイスクールの取組等を紹介

》》》 主な発表内容

- 学校の現状（自己紹介）
- DXハイスクールの実施状況
- DXハイスクールの取組課題
- 大学等に求める支援内容



(Copilotにより生成)

プログラム②

参加大学によるプレゼン

参加大学が高校へ提供可能な支援等を紹介

》》》 主な発表内容

- 学校の現状（自己紹介）
- 情報教育に関する最近の取組状況
- 高校へ提供可能な支援内容



プログラム③

グループディスカッション

1グループ6、7人程度で、大学・高校の参加者が複数のグループに分かれて、計3回実施

- 高校、大学それぞれで抱えている課題や取組を共有するとともに、自由にテーマを設定して意見交換を実施

(討論されたテーマ例)

- 具体的な高校と大学の連携方法
- AIの教育現場での活用状況・課題



連携イベントによる効果

高校・大学ともに連携に向けた一歩を踏み出す機会になり、高大連携が推進

- 双方の取組状況が把握でき、連携・支援できる条件を模索することができる
- 外部専門人材から助言や課題解決に向けた手法を得ることで、発展的な取組を計画・実施できる機会が得られる





高大連携 イベント



第1回DXHシンポジウム2025

- 主催：愛知産業大学
- 発表高校：愛知県立愛知総合工科高等学校、愛知県立岡崎商業高等学校
愛知県立小牧工科高等学校、愛知県立豊川工科高等学校
愛知県立日進高等学校、愛知県立碧南工科高等学校
名古屋市立工芸高等学校

プログラム①

事例紹介「高等学校におけるDX教育の最前線」について発表

DXハイスクールの取組内容及び高大連携に関する内容を発表

》》 主な発表内容

- 「DXH高大連携概要」愛知産業大学
- 「コミュニケーションツールとしてのDX」小牧工科高等学校
- 「高大連携オンライン授業を活用した高等学校の魅力化のアップデート」碧南工科高等学校
- 「メタバース空間での授業の実践と課題」日進高等学校
- 「AIを活用して、AIを活用する」岡崎商業高等学校
- 「生成AIを活用した授業実践」愛知総合工科高等学校
- 「高校・大学・企業をつなぐDXの可能性」愛知産業大学
- 「愛知県におけるDXハイスクールの現状と課題」



愛知県教育委員会

プログラム②

ポスターセッション

大学の先生をはじめDXハイスクール採択校の先生方が興味のあるブースで各学校が取り組んでいる内容について説明を聴く。

》》 課題や工夫を共有し、大学の先生が理論的な視点や研究成果を提供することで、相互に学び合える環境を構築できる。



プログラム③

オープンパネルディスカッション

モデレーターを設置し、会場からのDXハイスクールの取組や採択校の課題感についての質疑に対してパネリストが回答

- 異なるバックグラウンドを持つパネリストや参加者の意見を取り入れることで、包括的で現実的な解決策を見出すことができる。
- 各学校の持つ課題感についてパネリストの経験による解決策を共有し、取組の推進に寄与。

DXハイスクール採択校のニーズ調査

● 調査期間

6月30日(月)～7月31日(木)

● HP公開URL

https://www.mext.go.jp/a_menu/shoutou/shinkou/shinko/mext_00023.html

採択校が大学等に求める支援、コンテンツ等 (高等学校個票)					
都道府県	公私立	学校名	住所	電話番号	メールアドレス
●●県	公立	○○高等学校	●●県××市1-2-3	△△-△△△-△△△	～～～@～.jp
DXハイスクール採択校が大学等に求める支援、コンテンツ等					
情報分野に関する大学のカリキュラムや教材の提供			情報分野に関するイベント		
情報Ⅱ等のカリキュラムへの助言			情報分野に関する集中講義への生徒の参加		
情報Ⅱ等のカリキュラム内における専門分野に関する教員・博士人材等による講義(出前授業等)			デジタルに関する課外活動への支援		
情報Ⅱ等のカリキュラム内における探究活動への教員・博士人材等からの支援			その他(情報Ⅱ等に関する内容で支援が必要なもの)		
情報分野に関するセミナー			その他(数学、理科、理数に関する内容で支援が必要なもの)		
情報分野に関する大学のカリキュラムや教材の提供について					
●カリキュラム提供:					
・情報分野に特化した先進的なカリキュラムの提供					
・高校生向けに適切な難易度に調整された大学レベルの授業					
・実践的なプロジェクトベースの学習プログラム 情報Ⅱ等のカリキュラムへの助言について					
●情報Ⅱのカリキュラムの検討にあたって、大学の最新の研究成果や教育内容を取り入れるための助言:					
・先端技術や最新の研究動向を反映させるためのアドバイス					
・大学の教員や研究者との連携による最新情報の提供					
●情報Ⅱの授業内容に、大学の専門分野(数理・文系非理工系時AIなど)との連携を考慮した助言(出前授業等)について					
●情報Ⅱ等の授業において、生徒の興味関心を喚起するAI技術に関する実践的な出前授業:					
・AIの基礎理論から応用までをカバーする講義					
・AIモデルの構築や実際のデータを用いた実習					
情報Ⅱ等のカリキュラム内における探究活動への教員・博士人材等からの支援について					
●プログラミングを活用した探究活動への支援:					
・プログラミングプロジェクトの企画と実行に関するアドバイス					
・高度なプログラミング技術の指導と個別のフィードバック					
・実践的なコーディングワークショップの開催 情報分野に関するセミナーについて					
●プログラミング応用セミナー:					
・プログラミングの基礎を応用した高度な技術の紹介					
・実際のプロジェクトを通じたプログラミング実践					
・最新のプログラミング言語やフレームワークの解説 情報分野に関するイベントについて					
●AIを活用したハッカソンやコンペティション:					
・AI技術を活用した問題解決型のハッカソン開催					
・大学の研究者や専門家によるメンタリング					
・優秀な成果を発表する場の提供とフィードバック 情報分野に関する集中講義への生徒の参加について					
●長期休業中に実施するプログラミング集中講義:					
・プログラミングの基礎から応用までをカバーする集中的な講義					
・実践的なプロジェクトベースの学習					
・プログラミングコンテストやハッカソンの開催 デジタルに関する課外活動への支援について					
●プログラミングに関するデジタル課外活動への博士人材による指導:					
・プログラミングコンテストやハッカソンの開催と運営支援					
・コーディングクラブやプロジェクトの指導とメンタリング					
・最新のプログラミング言語や技術に関するセミナー(情報Ⅱ等に関する内容で支援が必要なもの)について					
●最新技術動向セミナーの開催:					
・情報技術の最新トレンドや研究動向に関する定期的なセミナー					
・特定の技術分野(AI、ビッグデータ、ブロックチェーンなど)の最新事例紹介					
その他(数学、理科、理数に関する内容で支援が必要なもの)について					
●高度な数学講義の提供:					
・高校生向けの大学レベルの数学講義の提供(微積分、線形代数、統計学など)					
・数学オリンピックやコンテストのための特別指導					

大学・高専機能強化支援事業選定校がDXハイスクール採択校等へ提供できる支援やコンテンツ等に関する調査

● 調査期間

10月14日(火)～10月31日(金)

● HP公開URL

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kinoukyouka/mext_00001.html

選定校が採択校等に提供できる支援、コンテンツ等(大学等個票)

都道府県	区分	大学等名	法人所在地	電話番号	メールアドレス
石川県	私立	金沢工業大学	石川県野々市市扇が丘 7-1	076-294-6705	kit-ss@mlist.kanazawa-it.ac.jp
現時点で採択校に提供できる支援、コンテンツ等					
情報分野に関する大学等のカリキュラムや教材の提供、情報Ⅱ等のカリキュラムへの助言、情報Ⅱ等のカリキュラム内における専門分野に関する教員・博士人材等による講義(出前授業等)、情報Ⅱ等のカリキュラム内における探究活動への教員・博士人材等による支援、情報分野に関するセミナーの実施、情報分野に関するイベントの実施、情報分野に関する集中講義への生徒の参加、デジタルに関する課外活動への支援、その他(数学、理科、理数に関する支援)					
情報分野に関する大学等のカリキュラムや教材の提供					
Pythonをはじめとするプログラミング言語や、ネットワークの仕組み、AIとデータサイエンスの基礎等のオンデマンド教材を提供することが可能です。また、現在、社会人を対象に実施しているDXに関するリスキングプログラムのオンデマンド教材も提供することが可能です。(教材費等 実費)					
情報Ⅱ等のカリキュラムへの助言					
情報Ⅱの各章に関連する本学の授業科目の内容を基にアドバイスすることが可能です。					
情報Ⅱ等のカリキュラム内における専門分野に関する教員・博士人材等による講義(出前授業等)の実施					
情報Ⅱの各章に関する内容の授業を提供することが可能です。					
情報Ⅱ等のカリキュラム内における探究活動への教員・博士人材等による支援					
本学教員が高校の先生方と探究学習のテーマを検討し、本学教員がそのテーマに沿った講義を行うことが可能です。講義では生徒の問題の明確化に向けた調査活動を通して課題を設定し、先行事例の調査や解決策の創出等の学習過程において、ファシリテート等を行います。					
情報分野に関するセミナーの実施					
本学が8月に実施した高校の先生方を対象としたDXハイスクール応援プログラムの講義型プログラムの内容を調整し、実施することが可能です。 テーマ例は次の通り。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 探究学習のグループ討議を支援するDX 2. 生成AIとGoogleのツールで実践できるデジタル探究学習 3. 新商品デザイン、プロモーション素材作成のための生成AI活用法 4. 探究学習に活かす3DCGとXR(VR/AR/MR)コンテンツ・クリエイション 5. 人間を測る: アンケートの設計・実施・解析手法と生体・生理計測 6. 探究学習のためのプロンプトエンジニアリング 7. 修学データ解析の手始め 8. スマート農業の理解とデータ活用アクアポニックスを例とした農業SDGs 9. 身の回りの空間のVR撮影とVRメモ技術 10. VR・360度カメラを活用した安全教育(危険の疑似体験) 					
情報分野に関するイベントの実施					
本学が8月に実施した高校の先生方と高校生を対象としたDXフェスを調整し、実施することが可能です。 テーマ例は次の通り。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. カードゲームとオープンデータを用いた地域幸福度(ウェルビーイング)向上ワークショップ 2. Googleのツールを併用した探究学習におけるアイデア創出体験ワークショップ 3. 新商品デザイン、プロモーション素材作成のための生成AI活用体験 					

・高校側からのアプローチ

→ 選定大学が示す「提供できる支援やコンテンツ等」を踏まえ、自校に必要な支援等を提供する大学へアプローチ

・大学からのアプローチ

→ 高校側が示す「大学等に求める支援やコンテンツ等」を踏まえ、大学として提供可能な支援等を求めている高校へアプローチ

調査結果や取組事例をもとに、高大双方からの積極的なアプローチにより

選定大学とDXハイスクール採択校の連携した取り組みが質・量ともに充実することを期待

- 今後も、DXハイスクール採択校と大学等が連携した取組の好事例を発信していきたいと思っておりますので、以下の連絡先まで是非お知らせください。

初等中等教育局参事官付 DXハイスクール担当

koukou@mext.go.jp

03-6734-2338



高等学校教育改革促進基金の創設 ～N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクール※構想～

令和7年度補正予算額

2,955億円



文部科学省

※N-E.X.T. (ネクスト) ハイスクールとは、New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools の略である。

「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定） 抜粋

第2章 「強い日本経済実現」に向けた具体的施策 第1節 生活の安全保障・物価高への対応 （6）公教育の再生・教育無償化への対応 （教育無償化への対応）

いわゆる高校無償化と併せて公立高校や専門高校等への支援の拡充を図るため、政党間の合意に基づき、安定財源を確保した上で、交付金等の新たな財政支援の仕組みを構築することを前提に、国から2025年度中に提示される「高校教育改革に関するグランドデザイン 2040（仮称）」に沿った**緊要性のある取組等について、都道府県に造成する基金等により先行的に支援する。**

課題

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、**地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念される**ところであり、**産業イノベーション人材の育成が重要。**
- 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化（2040年には高校1年生が約36%減少）。現状でも約64%の市区町村において公立高校の立地が0又は1であることなどを踏まえ、**地理的アクセスを踏まえた多様な学びの確保が重要。**

① 産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業 令和7年度補正予算額 2,950億円 支援期間：3年程度

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた

高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及する。

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等 育成支援

- 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した 教育機会の確保

- 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要。**
- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学び**や**遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

学ぶ意欲のある高校生が、家庭の経済状況に左右されることなく、学習習慣の定着、学習時間の増加、学びへ向かう姿勢の確立ができるよう、放課後等を活用し、**学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組**、探究活動の深化による**多様な進路に向けた支援**を行う。

- 学科・コースの再編、学校設定科目の新設
- 域内の教育環境向上に貢献する取組（遠隔授業、教員研修拠点等）
- 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
- グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

② 高等学校教育改革加速に係る伴走支援事業 令和7年度補正予算額 5億円

改革先導拠点の着実な実施にあたり、都道府県の進捗の確認・評価を行うとともに、類型ごとに、ノウハウの共有・専門家による支援を行う。

事業スキーム

文部科学省

基金造成経費を交付

都道府県

※都道府県事務費も措置

対象

- ①都道府県
- ②民間

補助率等

①10分の10

補助対象経費

- ①改革先導拠点の創出に係る経費（人件費、旅費、謝金、設備・施設整備費等）
- ②高校教育改革加速に係る伴走経費（人件費、旅費、謝金、備品・消耗品費等）

（担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付）